2022年6月29日

成果発表会

**The C’z 配布資料**

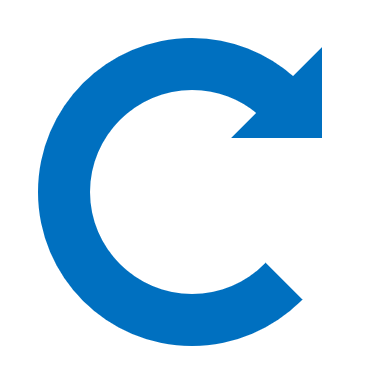
The C’z

安部達貴 金指雅人 兼平美波 小島偉央 佐分梨奈

1. **システムの流れ**

The C’zが作成いたしました「日日減るスチェック」のシステムの流れです。

仕様説明時にご参照ください。



**長期目標選択**

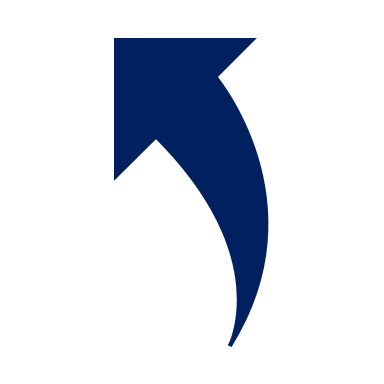
**長期目標達成**

**短期目標選択**

**達成可否報告**

**長期目標消去**

**長期目標全消去**



**二週間達成**

**長期目標生成**

**祝！卒業**

**毎日選択**

1. **チーム開発を振り返って**

以下４点について個人の振り返りを行いました。

* 成長を実感した点
* 反省点
* 次にどうするか
* チームメンバーから見た成長点と良かった点

**安部達貴（株式会社デジサイン）**

【成長】

・javaへの理解が深まった

・名刺管理の時はサンプルをそのまま参考にすることが多かったが、今回はつながりや内容をしっかり理解して自分たちの機能を作ることが出来た

・チーム開発の現場の空気感を少しでも理解できた

【反省】

・前半は全体の構造を把握できていなかった

・初めの頃は質問のタイミングが遅く、タイムロスがあった

・スケジュールの意識が足りなかった

・時間内に担当作業を終わらせることが出来なかった

【次にどうするか】

・まずスケジュールや作業の大枠をしっかりとらえてから具体的なスケジュールを立てる（それにより質問のタイミングも掴みやすくなると考える）

・細かくスケジュールを考え、それぞれの作業にかけられる時間を意識できれば、質問も臆せずにすることが出来たと思うので、次からはそうしたい

・コーディングする際に自分のルールを設定する

・チーム内で共有されている全体のルールをしっかりと把握しておく

【チームメンバーから】

・決定事項・出た意見などをドキュメントにきれいにまとめてくれたので、その後の作業に役立った

・チーム内での質問/提案/確認の内容が的確だった

・一緒に初期・長期ページという難しい機能をやっていて、DAO，Servletへの理解が深まっているのを感じた

・各々が使用するファイルの情報を整理をしてくれた

・メンバーの言いたいことを纏めるのが上手かった

・客観的視点でメンバーが気づかない部分を指摘、質問してくれた

・DAO,サーブレットへの理解が深まり、積極的に意見を言うようになった

・要約力、適切な時に前に出てくれるリーダーシップがあった

・DAO,サーブレットへの理解が深まり、質問に答えてくれたり、何かあったら質問しようという前向きな意識になっていた

**金指雅人（システム・プロダクト株式会社）**

【成長】

・実践を通じて理解を深められた

・名刺管理になかったシステムを作ることで、構造を理解できた

・getter setter setAttribute等の具体的な使い方を少しずつ理解できた

【反省】

・時間を考慮して行動すべきだった

・計画の立て方がわからなかったのもあるが、作成期間中に優先度を付けて作業を行うべきだった

・優先度の低い機能を切り捨てるタイミングが遅かった

【次にどうするか】

・作業を行いながら学習し、自分のできることを増やすということは、引き続き重視したい

・今後は現場で働くことになるので、時間を意識して計画的に行動できるようになりたい

【チームメンバーから】

・javaへの理解があった

・提案が多かった

・システムへの理解が深かった

・自分の担当作業をしっかりと自分で進められていた

・他メンバーの進捗の確認をしたり、最後はメンバーのことを考える意見が増えた

・率先して分からない部分を聞いたり、意見を言ったりしていたので、議論の呼び水となっていた

・座学で学んでいない処理も積極的に挑戦していた

・責任感が強く、担当した仕事を必ずやり遂げてくれた

・周りを見た発言、得た知識や経験の共有をしてくれた

・自分が書いたプログラミングをもとにメンバーにアドバイスができるようになった

・自分の経験をみんなに共有することで問題解決につなげたりしてくれた

**兼平美波（フラクタルシステムズ株式会社）**

【成長】

・java（Servlet,DAO）への理解が深まった

・5月にはあまり理解できていなかったコードやファイルの繋がり・流れを把握できるようになり、機能を実装するために必要な処理を考えられるようになった

・質問を臆せずできるようになった

・最初は質問の仕方が下手だったが、Servlet,DAOへの理解が深まったことで、具体的に質問ができるようになった

・他のメンバーのエラーや疑問を解消できた

・最後の方は全体でやっている作業、やるべきことを把握できた

・今までに比べ難しい処理を書いていたので、実行出来た際にもっと喜べるようになった

【反省】

・前半は特に計画性が無かった

・ツール導入等の提案をしていたのは良いものの、チーム全体での効果的な使用とはいかなかったので、もっと使いやすく導線を引いたりすべきだった

・コメントアウトを活用したが、結果的に読みにくいコードになってしまったりしたので、チームにおけるコーディングの最低限のルールは決めるべきだった

・各々が書いたコードのオブジェクト名やメソッド名等を整理したドキュメントがあれば良かった

・大変だったことや困ったことを纏めておくべきだった

【次にどうするか】

・自分の担当の仕事にかかる時間をあらかじめ考え、長期的なスケジュールと一日のスケジュールを考える

・定期的にスケジュールに対する実績を振り返り、自分の力量を知り、スケジュールを直す

・配属された際には、現場のルールをしっかりと確認する

・質問に関しては、自分のわかっていること/分からないこと/知りたいことを明確にする

・一日の悩んだことや手間取ったことをメモし、躓いたところを自覚する

・自分の分だけでもメソッド名や変数名をドキュメントで纏め、把握しておくことで、他人に聞かれた際にもすぐに答えられるようにしておく

【チームメンバーから】

・全体の構造を把握していたので、迷ったら確認できた。そのため、みんなで確認しあう時間を短縮できた

・みんながわすれていた議題を改めてピックアップし、再び話し合うことが出来た

・ツールの導入を進んでしていた

・設計や開発作業において必要な俯瞰的視点があった

・確認をとるべき細かいところの指摘が出来ていたので、認識のすり合わせをすることができた

・Googleドキュメント/スライド/スプレッドシート/Keep等共有ツールを使うなどの具体案を提案してくれた

・開発段階で役割を振り分けたり、纏めたりしてリーダーシップを発揮していた

・開発で軸となり引っ張れるようになった

・話し合いの場などで状況整理をしてくれた

・開発フェースでまとめ役になり、開発手順を考えてくれた

**小島偉央（サインポスト株式会社）**

【成長】

・5月に比べてファイル間のつながりを理解できた（全体構成の理解）。

・特にSQL文の作成に関しては、メンバーから質問してもらえるほど理解できた。

・名刺管理アプリを作成した際には、「わかったつもり」だったことが６月に確認できた。

・質問の重要性に気づけた。（その場で不明点を解決できる）

・資料作成にあたって、根拠や説得材料の重要性を実感できた

【反省】

・講師への質問のタイミングが適切でなかった。座学や名刺管理アプリ開発の時点でわからない部分をなくすべきであった。

・名刺管理アプリ作成時の目的が、学びではなく完成になってしまった。

・スケジュールが遅れたときの対応を当事者としてもっと考えるべきだった。楽観的な考えがあった。また初めてやることでわからないため、とりあえずやってみようという精神だったこと

【次にどうするか】

・わからないことを後回しにしない。その日のうちに解決する。不明点を明確にする

・スケジュールを一日単位で管理する

・今回は纏めて遅れを取り戻すために、最後の方に作業量を大幅にふやしたため、次回以降はその日もしくはその週ごとに対応したい

・もう一度チーム開発をするなら、講師への相談、担当の見直し、作業量の変更などで工夫し、作業の遅れに対応したい

【チームメンバーから】

・SQLへの理解が深く、SQLで頼れる存在だった

・システムの構造への理解が深く、揺るぎない知識のベースとして確認などする際に有難かった

・次は何をしたらよいかメンバーに聞いていた、自分のできることを模索していた

・分からないことを積極的に聞いてくれた

・メンバーにも積極的に質問し、わからないことを残さないようにしていたので、進行がスムーズになった

・SQLへの理解が深まっていた

・テーブルの構成、システムの構成をしっかりと理解していたので、助かった

・発表作業の準備を積極的に行っていたため、全体での話し合いがスムーズになった

・グループの雰囲気作りやモチベーションをあげる声掛けを率先して行っていた

・発表担当として、開発作業の段階から発表のことを考え、反省点等を反映させようとしていた

**佐分梨奈（サインポスト株式会社）**

【成長】

・積極的に質問する重要性を実感した

→背景：分からないことを伝えなければ「分かっている」とみなされ、自分の首を絞めることになった

・各自が担当部分でリーダーシップを発揮できた

→背景：各フェーズで中心となる人が中心になった

・IT知識ゼロから簡単なプログラムを書ける段階に成長した

→背景：プログラム言語すら知らない段階から、調べながらjavaなどのうち簡単なコードを解読・記述できるようになった

・リーダーとしては、一歩引いて全体を見る役割を意識できた

→背景：初めはリーダーとしてチームを引っ張る必要があると考えていた。けれどすぐに考えを改め、全体の方向確認とメンバーを信頼することを意識した

・ドキュメントコミュニケーションを実践できるようになった

・メンバー間のすり合わせの重要性を痛感した

→背景：タスクごとのルールや時間などを事前に決めておかないと、後に響くことを多々痛感する場面があった

【反省】

・先にタスクごとの時間設定をすべきだった

→背景：要件定義の際、大まかなスケジュールは用意したものの、タスクごとには分けていなかった（初めての開発なため、どのようなタスクが必要になるか予想できなかった）

・効果的な会議運営ができなかった

→背景：意見出しに時間がかかり、だらだらと会議が続いた

・疲れた時に、話の構成や声のトーン、表情に気を配れなかった

・チーム間のすり合わせに時間がかかった

→背景：ドキュメントコミュニケーションを取り入れた中盤からも、ドキュメント管理が曖昧だったので、度々すり合わせ時間が生じた

・タスクの優先順位決めを早くすべきだった

→背景：タスクの全貌が見えた終盤になってから優先順位を付けたため、それまでの期間で効率化できる場面が多々あったことに後から気づいた

【次にどうするか】

・細かく報連相する

・初期段階で全体像を把握する

・現場の共通ルールは必ず確認する

・関係構築のために日常会話も重視する

・ファシリテーション方法を学び、練習する

・疲れた時は必ずリフレッシュ（チーム全体でも）

・相手に説明・情報共有するときはドキュメントコミュニケーションする

【チームメンバーから】

・難しい作業を担当しており、自分で考えながら質問も積極的に行っていた。

・理解しながら作業するという意識があり、丁寧な仕事ぶりがうかがえた

・纏めることが苦手と言っていたが、やっていくにつれて方向性の決め方などが上達していた

・スタンプカードという難しい機能にチャレンジしていた

・プログラミングに対する積極性が身についた

・質問を積極的に行うようになっていた

・先輩社員や東講師に聞いた情報やアドバイスを積極的にチーム内での活動に取り入れていた

・メンバー全員への気遣いをしていた

・前提条件の確認をおこなってくれた